

平成30年版医師国家試験出題基準の概要

改定のポイント

- 第112回(平成30年)医師国家試験から問題数の変更(500問→400問)を見据えて、ブループリント及び出題基準の改定を実施。(新しい出題基準は第112回から適用。)
- 保健医療論・公衆衛生等の出題数は担保されるべきとの平成26年度医師国家試験改善検討部会の報告を踏まえつつ、臨床実地問題を重視する観点から医学総論のブループリント(医師国家試験設計表)を改定。
- 医学教育モデル・コア・カリキュラムや卒後臨床研修到達目標等との整合も考慮し、問題の水準を、引き続き、臨床研修において指導医の下で診療に従事する際に必要な知識及び技能を問うレベルに設定。
- 医師に対する社会的要請や医学・医療の進歩を踏まえ、各領域の出題事項を見直し。
(改定の例 医師のプロフェッショナリズム:生と死にかかわる倫理的問題、利他主義など、医療の質・医療安全:同意撤回書、ヒューマンエラー、制度・組織エラー、薬剤耐性<AMR>など、保健医療・地域医療:多職種連携教育、地域包括ケアシステムなど、救急医療や緩和ケア関係の項目名の見直し、新たな領域:ゲノム要因など)
- 日本医学会医学用語辞典との整合や項目番号付与(医学各論)など利便性の向上も考慮。

【必修の基本的事項】

(大項目)	(ブループリント)
1 医師のプロフェッショナリズム	約4%
2 社会と医療	約6%
3 診療情報と諸証明書	約2%
4 医療の質と安全の確保	約4%
5 人体の構造と機能	約3%
6 医療面接	約6%
7 主要症候	約15%
8 一般的な身体診察	約13%
9 検査の基本	約5%
10 臨床判断の基本	約4%
11 救急初期診療	約9%
12 主要疾患・症候群	約10%
13 治療の基本	約4%
14 基本的手技	約4%
15 死、緩和ケア、終末期ケア	約2%
16 チーム医療	約2%
17 生活習慣とリスク	約5%
18 一般教養的事項	約2%

【医学総論】

(章)	(ブループリント ^注)
I 保健医療論	約13%(10)
II 予防と健康管理・増進	約17%(13)
III 人体の正常構造と機能	約9%(10)
IV 生殖、発生、成長、発達、加齢	約9%(10)
V 病因、病態生理	約12%(13)
VI 症候	約12%(13)
VII 診察	約7%(8)
VIII 検査	約9%(10)
IX 治療	約13%(15)

注: 括弧内はH25年版の数字。「医学総論」では中項目までブループリント(医師国家試験設計表)を設定

【医学各論】

(章)	(ブループリント)
I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常	約5%
II 精神・心身医学的疾患	約5%
III 皮膚・頭頸部疾患	約11%
IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患	約7%
V 心臓・脈管疾患	約10%
VI 消化器・腹壁・腹膜疾患	約13%
VII 血液・造血器疾患	約5%
VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患	約12%
IX 神経・運動器疾患	約9%
X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	約8%
X I アレルギー性疾患・膠原病、免疫病	約5%
X II 感染性疾患	約8%
X III 生活環境因子・職業性因子による疾患	約5%

※ブループリントとは出題割合の目安を示す数値。概数のため必ずしも合計が100%にならない。